

改訂版の発行にあたって

初版本を発刊させていただいてから5年がたちました。

この間、放射線影響研究や放射線防護体系に関しては、新たな国際的コンセンサスが形成され、発表されています。2007年には国際放射線防護委員会（International Commission on Radiological Protection：ICRP）が新勧告を正式に発表し、2008～2010年には原子放射線の影響に関する国連科学委員会（United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation：UNSCEAR）が報告書の中で放射線影響に関する最新知見をとりまとめています。こうした放射線影響研究の知見や新防護体系は、昨年発生した東京電力福島第一原子力発電所事故への対応を考えるための基盤として、重要な役目を果たしています。

現在、多くの方が、放射線の影響や防護についての正確な情報を求めています。この状況に鑑み、本書も国連科学委員会の最新報告書とICRP2007年勧告の見解を取り入れ、改訂することにいたしました。低線量放射線の健康影響に関しては、まだ科学的には未解決の部分が多く残されており、個々の研究結果を比べると矛盾したものも多く、さまざまな情報に混乱している方もいらっしゃるかと思います。「低線量影響についてはどこまではわかっていて、どこまではわからないのか」「わからないのはなぜなのか」「研究によって異なる結果が得られているのはどの部分なのか」といったことを整理するのに、本書がお役に立てばと願っております。

平成24年10月1日

放射線医学総合研究所 放射線防護研究センター

米原 英典 神田 玲子 吉永 信治 島田 義也